

一

- 問一 ①逸 ②希(冀) ③相 ④潤 ⑤明
- 問二 A ア B イ C ア D イ E ア
- 問三 もうひとつの自分のルールは百人の守っているルールの存在を前提として含み、初めて成立しているので、対立的に見える二つのルールはそれぞれが異なった根本原理に基づくものとは言えず、二元論的な対立による二者択一的な議論はそもそも成立しないから。(118字)
- 問四 日常に存在する以外のもう一つのルールとして、会社には集団によって共有されるルールが人工的かつ意識的に仮構されているということ。(63字)
- 問五 劇団というフィクショナルな集団の共通のルールを身につけることで、初めて一人の人間は個人性を発揮する演劇という表現行為を獲得することができるから。(72字)

二

- 問一 ア 人の世、世間 イ 方法(機会)がほしい ウ 袂をとらえて エ 声をあげて鳴く オ 近寄り
- 問二 私もただ、あなたと同じ気持ちです。旅衣を着て、ここに来て、あなたと別れる旅宿のつらさが分かったのです。
- 問三 ③
- 問四 人に見つからずに、今晚、私の家を訪ねてほしい、ということ。
- 問五 十六夜日記

三

- 問一 ①たちどころに ②なし ③もつとも ④いかん ⑤はたして
- 問二 かくのごとくしてなおつかうべけんや
- 問三 新たに赴任した周敦頤が、かつて分寧の地で名裁きにより未解決の事案を処理したことから、自分たちにも不当な待遇を訴える場所ができたと喜んだから。
- 問四 およそ周敦頤の手を経て処理された事案でなければ、下役は敢えて決断しようとはしなかった。
- 問五 (1) あやうく君を失うところだった。今後ようやく周敦頤という人物がわかるのだ。
(2) 讒言に惑わされていた趙抃であったが、周敦頤の超然とした対応や、ともに働くようになってからの行動や人柄を見て、優れた人物だと悟ったから。